

創刊昭和55年5月5日

発行所 まんいちほち
418こちら情報部
 〒418-0063
 富士宮市若宮町140(きうちいんさつ内)
 TEL 0544 24-1515
 E-mail: printkiuchi@space.ocn.ne.jp

印刷所
株式会社 きうちいんさつ

第**404**号
 【通巻405号】

次号は 2月5日の発行です。
 発行数 15,500部

こちら情報部
 yon.ichi.hachi.

2014年、午年。新しい年
 がはじまりました。本年
 もよろしくお願ひ致します。



近藤 博(小泉)

何を書こうかな⑩

私の変身

三年の女子バレー部員に進学の個人指導をしていた。「先生、まだ練習やってるんですよ」私の感覚はインターハイが終われば、三年生は引退していると思っていた。「来週、決勝なんです。観に来てください」彼女が勉強と部活動、両方を続けていたのかと

思うと行かないという選択肢はなかった。「行くさ」と強い口調で言った。決勝戦当日になった。会場へ入ると緊張感が漂っていた。試合前には応援練習、私は一番前の席で慣れない拍手子、メガホンを使って大声を上げる。いよいよ試合開始、応援席は全員立

ち上がる。立ったままで声援。一喜一憂しながら、ゲームは進んだ。私はアイドルグループのコンサートに居るような錯覚を覚えた。立ちっ放しで選手の名前を大声で連呼する。教え子の名をこれほどたくさん呼んだことは、私の過去には無かった。先生と生徒の関係は、ファンとアイドルの関係にもなっていた。試合はファイナ

ルセットに入り、15分で劇的勝利で終了、熱戦の幕は閉じた。ハイタッチをしていると選手が応援席に走り寄る。私は選手に握手を求め、次に彼女の頭を撫でた。この瞬間、私はファンから先生に戻っていた。

望月 勝

マンスリーレビュー 242

駄洒落

昔から私は駄洒落を言うのが大好きであった。だから文章を読む時は、常に言葉の読みや響きに注目していた。今でも私は授業中に実に素敵な駄洒落を使うことが多い。また、かつての教え子の中には、私が教えた大切な事などまるで覚えていないが、駄洒落だけは今でも完璧に覚えていると言う秀才たちも数多く存在する。

特に駄洒落がその効果を最大限に発揮するのは、英単語を覚えるという様な退屈極まりない学習においてである。

そんな訳で私は生徒の為に毎日素晴らしい駄洒落を作ろうと研鑽を積んでいる。だが、最近私の洒脱な駄洒落をかみ砕いて説明しなければ、理解できない生徒が非常に増えてきている。その原因の一つは私と彼らの年齢差だと思ふのだが、もう一つの大きな原因は生徒の読書離れである様な気がしてならない。若者の読書量の減少の弊害がこんな所に出てきたのだ。

角田 猛夫

田貫湖ふれあい自然塾

- 自然塾のプログラム
- ① 館内ジオラマ 森と洞くつ探険
12日・13日(祝)・25日
14:00~14:30
19日 10:30~11:00
 - ② 富士山洞くつ探険
12日 9:45~
 - ③ どんど焼き
13日(祝) 11:00~
 - ④ 寺子屋⇒New
19日 10:00~12:00
 - ⑤ 富士山ぶるぶるキャンプ 冬を満喫冒険だ!⇒New
2月1日~2日
13:00~翌15:00
 - ⑥ 田貫湖やまのほりクラス~二子山スノーシュー~⇒New
2月8日 8:00~
 - ⑦ ためぎ湖なぞとき探偵事務所
随時実施中!
 - ⑧ 冬菜ならではの水鳥ウォッチング⇒New
平日14:40~

詳細・ご予約はTELにてお問合せ下さい。
 TEL(0544)54-5410
 これらのプログラムはホームページ上でも見ることができます。
 こちらから→<http://www.tanuki-ko.gr.jp/tanukiko/special>

静岡県立朝霧野外活動センター

- ① プラネタリウム一般開放
~双子座のお話と、冬の星空~
家族で冬の夜空を楽しもう!
19日(日)
1部 13:15~受付 13:30~14:30上映
2部 15:00~受付 15:15~16:15上映
- 詳細は後日センターHPにて発表いたします。
 TEL:0544-52-0321 HP:<http://asagiri.camping.or.jp/index.html>

松 風

季寄せによれば、「初松籟」は新年になって初めて松の梢に吹く風。「初松風」、「初松韻」ともいう。因みに、「松風」とは松林の中を吹く風の音のことだが、シューシューという釜の湯がにえる音。あるいは茶の道をたえていう。

さて、茶の湯の心を伝える千利休の言葉に利休七則があります。

- 一 茶は服のよきように
- 二 炭は湯の沸くように
- 三 夏は涼しく、冬は暖かに
- 四 花は野にあるように
- 五 刻限は早めに
- 六 降らずとも雨の用意
- 七 雨が降らなくても傘を用意するなど、人を思いやり、日頃から準備を怠らない

利休は茶の湯の真髓をわかりやすい言葉でまとめ、残しました。これらは日常生活にも役立つおもてなしの気づかいの基本姿勢でもあります。——(PHP十二月号より)

もとより、茶の湯は、自然を尊ぶといわれるが、折々に旅先の名園や城内の茶亭で、見よう見せいで嗜むのも一興。とかく、「茶の湯は決まりごとが多くてむずかしい」ともいわれ、その所作を日常の実践の場に培って行くならば、自ずから心のゆとりもでき——とりわけ、条目(五七)の一つ一つに気配りを以って接すれば、私たちの社会は、本当に和らぎ合ったものへ展開してゆくことでしょう。これまで、当紙の行間をうすめ、本号を以って四百編を綴ることができました。度々拙い文ですが御容赦下さい。

初風や静まり返る松林

KEN

